

どっくへ……？

大事に育てられ

いつのまにか綺麗な体と整った顔立ちの青年になり

良い大学に通い明るい友達にも恵まれて

幸せな毎日を送っている筈の若者たち

それなのに自分の姿が見えていない

虚しさと寂しさが自己の輪郭を作り

歩む道すら定かには見えていない

欲しい、何かが欲しい

それが何であるのか分からないのだけれど

皆と一緒に居たいと思うのだがそれが何のためかも分からない

一緒に足踏みをし、一緒に歌を歌い

例えそれが虚像であつても力強い何かが欲しい

空想の中に実体を求める目には

虚偽も悪も獣性も却って本当らしく見えて来る

豪華な虚飾で建てられた建物も心の宮殿に見えて来る

寂しきで虚しく結束した集団はどこへ行くこうとするのか

自己催眠で仮面を被った教祖の姿は

キリストや仏陀以上に神々しく見えて来る

自己催眠は集団催眠を呼び

笛の音で誘われる子供らのように

輝かしい街々を通りぬけて行く

眠りから覚めれば焼け跡と瓦礫の広がる不毛の街

歴史にはこんな風景が何度も何度も繰り返された

集団ヒステリーはイルカにも鯨にもあるが

人間の場合が最悪な集団自殺の道に通じる

ヒットラーやスターリンや東条英機とそれを取り巻く国民たち

数多くの得体の知れない教祖とそれを取り巻く信者たち

すべて虚しきと寂しきから逃れたいが故に廃墟へと導かれた

僅かな身近な人すら愛せなくなり信じられなくなつて

どえらいものに身売りしてしまうのかもしれない

おいおい、君たち、いや、僕達はどこへ行くこうとしているのか

(2006.7.31)